

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.9 10月号

長岡市ものづくり人材教育訓練プログラム

10月17日与板支所に、製造業に従事したいという10名の若き見習い研修生が集合。



長岡市の進める「ものづくり中小企業人材確保事業」の教育訓練プログラムに、与板の打刃物体験が

取り入れられたことで、会員の河政刃物さんの工房を会場に、みっちり伝統打刃物の実技研修が行われました。

20代30代の研修生、鍛冶場に入るのも見るのも初めてということで、ビデオを見ての事前学習の後、いよいよ現場へ。



親方から手ほどきを受けながら、刃物造りで一番重要な「鍛接」の部分を習います。「もっとしっかり支えて。」と容赦ない叱咤と指示の声飛び交い、緊張の連続です。

「鉄は熱いうちに打て」の教えどおりに

初めて打った自分の刃物材料を次の鍛錬の工程に持ち込んでから、いよいよ「鍛錬」

に入ります。刃物づくりのプロから直に手をとって教えられ、くり返し鉄を叩いて鍛えていくうちに、造る切り出し刃に愛情と自分なりの思い入れが乗り移っていきます。



刃物の形を成してくるころには、研修生の皆さんの表情も一変。この製品をより良いものにしたい、という真剣さが加わってきて、いっばしの「弟子」の顔つきに…。



ものづくりの楽しさは、結局造っているモノへの愛情を込める「度合い」で決まる…ホラだんだんいい顔になってきました。

一日の研修を終えての反省会。

「伝統の打刃物技術を残していかなければ」「地域のだいじな文化だと感じた」「造るということの楽しさを実感できた」との言葉に、協力会員の疲れも吹き飛んだ一日でした。

「伝統の打刃物技術を残していかなければ」「地域のだいじな文化だと感じた」「造るということの楽しさを実感できた」との言葉に、協力会員の疲れも吹き飛んだ一日でした。



一日の研修を終えての反省会。「伝統の打刃物技術を残していかなければ」「地域のだいじな文化だと感じた」「造るということの楽しさを実感できた」との言葉に、協力会員の疲れも吹き飛んだ一日でした。